

「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート（案）」に対する 市民意見募集の実施結果について

1 実施概要

市民意見募集期間	令和4年12月21日（水）から令和5年1月20日（金）まで
市民意見提出方法	①電子申請システム ②郵送（市民意見募集用リーフレットに添付のハガキにて） ③FAX ④持参
市民意見募集用リーフレット配布場所	各区役所広報相談係、市民情報センター、各区図書館、行政サービスコーナー、瀬谷区・旭区の公共施設等、PRボックス（鶴ヶ峰駅、二俣川駅、希望ヶ丘駅、三ツ境駅、瀬谷駅、横浜駅、桜木町駅、新横浜駅など）

2 実施結果

意見通数（通）	意見総数（件）
239	714

提出方法	意見通数（通）
電子申請システム	186
郵送	42
FAX	6
持参	2
その他	3
合計	239

住所別	意見通数（通）	住所別	意見通数（通）	住所別	意見通数（通）
鶴見区	4	旭区	54	戸塚区	11
神奈川区	3	磯子区	2	栄区	0
西区	1	金沢区	6	泉区	6
中区	6	港北区	13	瀬谷区	73
南区	2	緑区	4	横浜市外	26
港南区	2	青葉区	9	不明	1
保土ヶ谷区	9	都筑区	7	合計	239

3 主なご意見とご意見に対する本市の考え方

※本資料では、2月にご報告させていただきました主なご意見に対する本市の考え方について記載しています。その他のご意見やご意見に対する本市の考え方については、本市HPで公表しています。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/jokyo/sonota/kamiseya/kdesignnote.html>



■ 旭区連合自治会町内会連絡協議会からのご意見

ご意見	本市の考え方
<p>1 「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート（案）」について 「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート（案）」に基づいて、着実に事業を推進してください。 また、今後、「観光・賑わい地区」の事業者の決定など、事業の進捗に合わせて、情報提供を行ってください。</p> <p>2 国際園芸博覧会開催時の輸送計画について 中原街道や厚木街道など会場周辺において交通渋滞が発生している状況で、国際園芸博覧会の開催により、当該地域の人の流れが増加し、交通量も増加することで交通環境のさらなる悪化が想定されます。また、バスや車が主な移動手段であるこの地域の住民の日常生活に支障が生じないよう、環状4号線や国道16号線などの道路整備を着実に進めるとともに、公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会と連携し、輸送計画について十分に検討し、実現に向けて着実に取り組んでください。</p> <p>3 旧上瀬谷通信施設地区のまちづくりに向けた基盤整備について 国際園芸博覧会開催時はもとより、旧上瀬谷通信施設地区の新たなまちづくりの推進に伴い、周辺の交通量が増加することが想定されます。このため、新たな交通や新たなインターチェンジの事業を推進するとともに、将来に向けて地区周辺の交通網の整備を着実に進めてください。さらには、横浜動物の森公園の中央道路の三保街道までの延伸についても着実に整備してください。また、整備にあたっては工事車両の動線計画について十分に検討を行い、適切に地域に共有してください。</p>	<p>地権者で構成する「旧上瀬谷通信施設まちづくり協議会」と本市でとりまとめた「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（2020年3月策定）」は、市民意見募集や説明会等も実施し、市民の皆様のご意見も踏まえたうえ策定し、観光・賑わい地区、物流地区、農業振興地区、公園・防災地区を配置し、郊外部の新たな活性化拠点の形成に向けた検討が進められてきています。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、今後もしっかり検討していきます。</p> <p>交通渋滞対策については、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（2020年3月策定）」に基づく将来土地利用に伴う開発交通が定常となる2046年において、周辺道路の拡幅整備や、地区内道路等が整備された前提のもと、周辺道路を含めて将来交通量を算定し、道路計画を策定しました。</p> <p>具体的には、この将来交通量に対応するため、土地区画整理事業の中で環状4号線の拡幅整備や幅員26mの幹線街路（区画1号線～3号線）、幅員12～18mの道路等を整備します。また、周辺では三ツ境下草柳線、瀬谷地内線の整備や国道16号線（八王子街道）の拡幅整備を進めるとともに、新たな交通や新たなインターチェンジの検討も進めています。これらを一体的に整備することにより、交通の分散・混雑の緩和を図り、交通渋滞等による周辺地域への影響を低減させていきます。</p> <p>引き続き、周辺地域への影響を低減させるよう、交通解析をしっかりと行いながら取り組んでいきます。</p> <p>今後も、事業の進捗に応じて、市民の皆様へ情報提供を行いながら、旧上瀬谷通信施設地区のまちづくりを進めていきたいと考えています。</p>

■ 全体に関するご意見（457件）

ご意見	本市の考え方
<p>すべての自然をそのまま残すことは不可能。新しい機能の誘導と形を変えながら価値を継承することは必要だと思う。</p>	<p>上瀬谷のまちづくりにあたっては、当地区が戦後約70年間にわたり、インフラの整備がほとんど行われず、厳しい土地利用の制限を受けてきた経緯や、地権者の早期の生活再建が求められていることなどを踏まえ行っていく必要があると考えています。</p> <p>地権者で構成する「旧上瀬谷通信施設まちづくり協議会」と本市でとりまとめた「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（2020年3月策定）」は、市民意見募集や説明会等を実施し、市民の皆様のご意見も踏まえたうえ策定し、観光・賑わい地区、物流地区、農業振興地区、公園・防災地区を配置することとして検討が進められています。</p> <p>土地利用にあたっては、豊かな水や緑が融合する自然環境を有した現在の地形や、広がりのある農地、隣接する市民の森との連続性など、立地特性を生かしながら土地利用の具体化に向けて検討を進めていきます。</p>
<p>民間や住民等と連携しながらエリアマネジメントの徹底を図ってほしい。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、様々な機能・事業者、すでに地域で活動する団体などとの連携により相乗効果を発揮するエリアマネジメントについて今後もしっかりと検討していきます。</p>
<p>太陽光、廃棄物リサイクルのほか、風力、小水力、下水汚泥等「炭素ゼロ」タウンの実現を目指す。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、「旧上瀬谷通信施設地区のポテンシャルを活用したグリーンインフラ・脱炭素への取組」を今後もしっかりと検討していきます。</p>
<p>新たなインターチェンジや新たな交通はしっかり整備してほしい。</p>	<p>交通渋滞対策については、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（2020年3月策定）」に基づく将来土地利用に伴う開発交通が定常となる2046年において、周辺道路の拡幅整備や、地区内道路等が整備された前提のもと、周辺道路を含めて将来交通量を算定し、道路計画を策定しました。</p> <p>具体的には、この将来交通量に対応するため、土地区画整理事業の中で環状4号線の拡幅整備や</p>

	<p>幅員 26mの幹線街路(区画1号線～3号線)、幅員12～18mの道路等を整備します。また、周辺では三ツ境下草柳線、瀬谷地内線の整備や国道16号線(八王子街道)の拡幅整備を進めるとともに、新たな交通や新たなインターチェンジの検討も進めています。これらを一体的に整備することにより、交通の分散・混雑の緩和を図り、交通渋滞等による周辺地域への影響を低減させていきます。</p> <p>引き続き、周辺地域への影響を低減させるよう、交通解析をしっかりと行いながら取り組んでいきます。</p>
<p>「継承する価値」があるのは「戦後手つかずで自然が残っている」ことだと思う。このままの自然を残してほしい。</p>	<p>相沢川は、現状、コンクリート3面張りの水路となっており、車両が通行する部分は既に暗渠化されていますが、今後、公園区域を中心に、原風景を感じられる水辺空間となるよう、再生の検討を進めていきます。こうした水辺空間の保全や再生と合わせて、新たな公園整備において、緩やかな起伏を有した現在の地形や貴重な水辺空間である和泉川、既存樹木などを活かした計画とするなど、自然と調和した土地利用を進めていきます。</p> <p>また、大門川についても、現状、コンクリート3面張りの水路で、農業振興地区を分断するように流れており、さらには農業用水として使われていないことから、将来の農業振興における土地利用においては、流水機能の確保に向けた改修を検討しています。</p> <p>土地利用にあたっては、豊かな水や緑が融合する自然環境を有した現在の地形や、広がりのある農地、隣接する市民の森との連続性など、立地特性を生かしながら土地利用の具体化に向けて検討を進めていきます。</p>

観光・賑わい地区に関するご意見（105件）

ご意見	本市の考え方
<p>デザインについては隣接する地区と調整する必要がある。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、公民連携による境界のデザインについて今後もしっかりと検討していきます。</p>
<p>観光・賑わい施設が完成して活気が出ることは喜ばしいこと。交通対策 にしっかり取り組んでほしい。</p>	<p>観光・賑わい地区については、「テーマパークを核とした複合的な集客施設」の立地に向けて、まちづくり協議会が、検討パートナーである民間企業とともに、幅広く検討を行ってきており、令和4年5月には、十分な事業実現性があることを確認したとの報告がありました。</p> <p>本市としても、事業実現性についてサウンディング調査を令和4年8月に実施した結果、複数の企業から様々な提案をいただき、高い関心が示されました。</p> <p>いただいたご意見も参考にしながら、観光・賑わい地区において、本市が民間事業者から事業提案を募集していくことで、魅力的な内容のテーマパークが実現していくことを目指していきます。</p> <p>また、交通渋滞対策については、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（2020年3月策定）」に基づく将来土地利用に伴う開発交通が定常となる2046年において、周辺道路の拡幅整備や、地区内道路等が整備された前提のもと、周辺道路を含めて将来交通量を算定し、道路計画を策定しました。</p> <p>具体的には、この将来交通量に対応するため、土地区画整理事業の中で環状4号線の拡幅整備や幅員26mの幹線街路（区画1号線～3号線）、幅員12～18mの道路等を整備します。また、周辺では三ツ境下草柳線、瀬谷地内線の整備や国道16号線（八王子街道）の拡幅整備を進めるとともに、新たな交通や新たなインターチェンジの検討も進めています。これらを一体的に整備することにより、交通の分散・混雑の緩和を図り、交通渋滞等による周辺地域への影響を低減させていきます。</p> <p>引き続き、周辺地域への影響を低減させるよう、交通解析をしっかりと行いながら取り組んでいきます。</p>

テーマパーク等は作るべきではない。

上瀬谷のまちづくりについては、約70年間米軍施設として接収されてきた地元地権者の皆様の長年の思いがある中で、地元まちづくり協議会の皆様と検討を進めてきています。

約250人の地権者が所有する広大な土地は地権者の意向なしでは事業を進められませんが、地権者で構成される地元まちづくり協議会が土地利用の検討を重ねる中で、「テーマパークを誘致しよう」という意見でまとめ、「人口減少、超高齢化社会の到来などを踏まえて、広大な土地を活かし、郊外部の新たな活性化拠点として、国内外から交流人口の増加が見込める土地利用を目指す」本市の考えと一致したため、市民意見募集や説明会等を実施し、市民の皆様のご意見も踏まえたうえで「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（2020年3月策定）」としてとりまとめました。この基本計画では、観光・賑わい地区、物流地区、農業振興地区、公園・防災地区を配置することとしており、観光・賑わい地区については、「テーマパークを核とした複合的な集客施設の立地」を位置付けています。

その後、まちづくり協議会が、検討パートナーである民間企業とともに、テーマパークを核とした複合的な集客施設について幅広く検討を行い、令和4年5月には、十分な事業実現性があることを確認したとの報告がありました。

本市としても、事業実現性についてサウンディング調査を令和4年8月に実施した結果、複数の企業から様々な提案をいただき、高い関心が示されました。

観光・賑わい地区において、本市が民間事業者から事業提案を募集していくことで、魅力的な内容のテーマパークが実現していくことを目指していきます。

■ 農業振興地区に関するご意見（63件）

ご意見	本市の考え方
<p>上瀬谷だからこそできる他地区との相乗効果を期待できる内容にしてほしい。</p>	<p>地権者で構成する「旧上瀬谷通信施設まちづくり協議会」と本市でとりまとめた「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（2020年3月策定）」は、市民意見募集や説明会等を実施し、市民の皆様のご意見も踏まえたうえ策定し、観光・賑わい地区、物流地区、農業振興地区、公園・防災地区を配置することとしてこれまで検討を進めており、各地区が連携することにより、計画地全体の価値が向上するとともに、周辺地域へも波及していくことで、環境と共生した郊外部の新たな活性化拠点の形成を実現していきます。</p>
<p>様々な採れたて野菜を直売する施設があるとうれしい。</p>	<p>上瀬谷のまちづくりについては、約70年間米軍施設として接収されてきた地元地権者の皆様の長年の思いがある中で、地元まちづくり協議会の皆様と検討を進めてきたものです。</p> <p>地権者で構成する「旧上瀬谷通信施設まちづくり協議会」と本市でとりまとめた「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（2020年3月策定）」は、市民意見募集や説明会等を実施し、市民の皆様のご意見も踏まえたうえ策定し、観光・賑わい地区、物流地区、農業振興地区、公園・防災地区を配置することとしてこれまで検討が進められてきています。なお、土地利用基本計画では、農業振興地区において、直売等による「収益性の高い農業」の展開を位置付けています。農産物を直接提供できるような機能について引き続き、検討していきます。</p>
<p>農業の体験施設等の誘致を期待している。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、都市と農のバランスの取れた郊外部の拠点となるまちづくりを実現させるため、これまでの歴史ある農業も継承しつつ、新たに大学や企業とも連携を図ることにより、新たな都市農業のモデルを確立させ、横浜市内外への情報や技術の発信拠点の形成に向けて、今後もしっかりと検討していきます。</p>

■ 物流地区に関するご意見 (36 件)

ご意見	本市の考え方
<p>周辺の緑や農地に配慮したものを期待している。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、新たな技術を活用した効率的な国内物流を展開する物流拠点の形成に向けて、今後もしっかりと検討していきます。</p>
<p>大規模物流ネットワークを災害時にも活かし復旧拠点としたらどうか。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、災害時にも物流機能が維持されるとともに、救援物資の受け入れや配送等、公的な物流機能、地域の一時的な避難場所や広域応援活動拠点との連携を担うことも出来る物流地区の実現に向けて、今後もしっかりと検討していきます。</p>
<p>物流を進めるなら、保土ヶ谷バイパスと東名高速から物流エリアに直接入る道路を作って一般道の通過は認めないようにすべき。</p>	<p>地権者で構成する「旧上瀬谷通信施設まちづくり協議会」と本市でとりまとめた「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（2020年3月策定）」は、市民意見募集や説明会等も実施し、市民の皆様のご意見も踏まえたうえ策定し、観光・賑わい地区、物流地区、農業振興地区、公園・防災地区を配置することとして検討が進められてきています。</p> <p>東名高速道路や保土ヶ谷バイパスなどの広域的な幹線道路との近接性をいかし、新たな技術を活用した効率的な国内物流を展開する基幹物流の形成が期待されることから、物流地区を配置することとしています。</p> <p>交通渋滞対策については、土地利用基本計画に基づく将来土地利用に伴う開発交通が定常となる2046年において、周辺道路の拡幅整備や、地区内道路等が整備された前提のもと、周辺道路を含めて将来交通量を算定し、道路計画を策定しました。</p> <p>具体的には、この将来交通量に対応するため、土地区画整理事業の中で環状4号線の拡幅整備や幅員26mの幹線街路（区画1号線～3号線）、幅員12～18mの道路等を整備します。また、周辺では三ツ境下草柳線、瀬谷地内線の整備や国道16号線（八王子街道）の拡幅整備を進めるとともに、新たな交通や新たなインターチェンジの検討も進めています。これらを一体的に整備することにより、交通の分散・混雑の緩和を図り、交通渋滞等による周辺地域への影響を低減させていきます。</p> <p>引き続き、周辺地域への影響を低減させるよう、交通解析をしっかりと行いながら取り組んでいきます。</p>

■ 公園・防災地区に関するご意見（63件）

ご意見	本市の考え方
<p>遊具の設置ではなく自然を感じられるキャンプ場等を検討してほしい。</p>	<p>公園・防災地区に整備する広域公園については、令和4年6月に公表した（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）を基に、「みどり」で広がる暮らしの風景を基本テーマに、上瀬谷の原風景である農景観や、米軍施設の跡地という独自の歴史性により残された自然をいかした緑豊かな公園としていきます。</p>
<p>四季の花や自然を楽しめるようにしてほしい。</p>	<p>旧上瀬谷通信施設地区のまちづくりにより新たに整備する（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、市民意見募集等を踏まえて策定した「（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）」に基づき、四季を通じて楽しみながら自然と触れ合う心地よさや喜びを感じられる公園となるよう桜並木やサクラ広場のほか、テーマが異なる複数のガーデンや庭園などを整備する予定です。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、今後もしっかり検討していきます。</p>
<p>広域の防災と地域の防災が連携できるとよい。</p>	<p>公園・防災地区に整備する広域公園については、公園整備の8つの方針の一つに防災・減災に資する公園を掲げており、災害時には「広域応援活動拠点」や、地域の避難場所として防災機能を発揮するとともに、グリーンインフラの効果による防災・減災機能も発揮できる公園としていきます。</p>

主な経緯

年月	内容
2015年 6月	上瀬谷通信施設の全域が返還
2017年 11月	「旧上瀬谷通信施設まちづくり協議会」の設立 ※地権者で構成
2020年 1月	構造改革特別区域「農地と宅地を一体的に活性化する区画整理特区」の認定
2020年 3月	「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」の策定
2022年 4月	旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業 都市計画決定（施行区域）、環境影響評価書の確定
2022年 10月	旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業 事業計画決定
2023年 2月	旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート 策定 横浜市旧上瀬谷通信施設地区活用事業 観光・賑わい地区事業者公募開始

今後の流れ（予定）

年月	内容
2023年 9月頃	横浜市旧上瀬谷通信施設地区活用事業 観光・賑わい地区事業者決定
2023年 秋頃	土地区画整理事業 仮換地指定
2023年 秋頃～	土地区画整理事業 本格工事着手
2027年 3月～9月	2027年国際園芸博覧会 開催
2030年代前半	観光・賑わい地区 開業

関連計画：本地区のまちづくりに合わせた主な基盤整備（2023年2月時点）

● 主な道路整備

土地区画整理事業区域内では、環状4号線の拡幅整備や環状4号線を補完する地区内幹線街路（区画1号線～3号線）を整備します。
また、周辺道路について、国道16号線（八王子街道）の拡幅整備及び瀬谷地内線、三ツ境下草柳線の整備を進めています。

● 新たなインターチェンジ

東名高速道路と直結する新たなインターチェンジについて、具体的な検討を進めています。

● 新たな交通

瀬谷駅を起点とした定時性、安定性が確保できる新たな交通の導入に向けた検討を進めています。

【旧上瀬谷通信施設 WEBページ】
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/jokyo/sonota/kamiseya/>



旧上瀬谷通信施設WEBページ

<本編の閲覧方法>

横浜市都市整備局上瀬谷整備推進課
「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノートについて」
WEBページ からご覧ください

上瀬谷 デザインノート



デザインノート WEBページ

発行：2023年2月

【お問い合わせ・窓口】

〒231-0005横浜市中区本町6-50-10 横浜市都市整備局上瀬谷整備推進課（市庁舎29階）

電話：045-671-2061 FAX：045-550-4098



『旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート』

概要版



■旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノートとは

旧上瀬谷通信施設は、2015（平成27）年6月に返還された米軍施設跡地であり、民有地、国有地、市有地をあわせ、約242ヘクタールに及ぶ首都圏においても大変貴重な広大な土地です。

旧上瀬谷通信施設地区(以下「本地区」)において、国際園芸博覧会の開催を契機として、豊かな環境と共生した新たな活性化拠点を形成するなど、郊外部の新たな価値を創造し、横浜の未来につながるまちづくりを進めます。

そこで、2020（令和2）年3月に策定した「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」をより具体化し、「観光・賑わい地区」の事業者公募において、**「地区全体で目指す姿」を提案者にメッセージとして示す**ことで、**質の高い提案を引き出し、より良い土地利用を誘導する**ことを目的として、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート」（以下「デザインノート」）を策定します。



旧上瀬谷通信施設地区のデザインの考え方

■本地区のデザインの考え方

本編 P.6

■本地区のまちづくりに

本編 P.7

期待される効果

【旧上瀬谷通信施設地区及び周辺への効果】

- グリーンインフラを活用することにより、緑の10大拠点としての環境を継承
- 観光・賑わい地区のテーマパークなど集客施設の整備等、次世代に向けた土地利用による地域経済への波及
- 地区周辺も含めた利便性・防災性の向上や、身近な自然や賑わい創出等による地域社会・コミュニティへの好影響
- 周辺住民をはじめとする市民のまちへの誇りや愛着の醸成

【広域的な効果】

- 全国からの物資・来街者・情報が行き交う大規模な物流・賑わい拠点
- 先進的な取組を誘導し新たな持続可能な都市モデルとしての発信拠点



まちづくりによって「ポテンシャル」を高め、**旧上瀬谷通信施設地区の価値を最大化**することで豊かな環境を活かした郊外部の**新たな活性化拠点**を形成

「持続可能な都市モデル」を創出

継承する価値

本地区の持つ自然環境を受け継ぎ、価値を高める

- ・緑の10大拠点としての緑を活かしたグリーンインフラ
- ・現在の地形を活かした景観形成
- ・国際園芸博覧会のレガシーを活かした、花と緑を通じた賑わいの創出 など

新たにつくる価値

ポテンシャルを活かした新しい価値を生み出す

- ・地域資源と融合した次世代に向けた観光賑わい施設
- ・まちと支えあう高付加価値な物流施設
- ・先端技術等による、SDGsの達成やグリーン社会の実現 など

旧上瀬谷通信施設地区のポテンシャル



【新たな活性化拠点について】

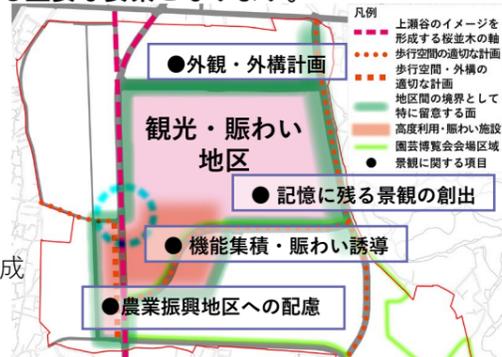
◎都心臨海部との相乗効果を図り、横浜市全体の活性化を促す郊外部の新たな活性化拠点

観光・賑わい地区

本編 P.13~14

テーマパークを核とした複合的な集客施設が立地し、国内外より子供から大人まで、幅広い世代の人を呼び込み、エリアブランディングの中心的存在となる観光と賑わいの拠点形成が期待されます。

- 日本が持つ文化や技術、地域資源が融合した次世代に向けたテーマパーク
●来街者が何度も訪れたい心に残る風景とエリアブランディング
●ヒト・モノ・コトが行き交い、経済が活性化し、新たな横浜の拠点形成
●市域・周辺地域の防災力向上に資する機能強化



農業振興地区

本編 P.15

畑地かんがい施設等の整備を進め、地域の農業生産力を高めていきます。さらに、都市と農のバランスの取れた郊外部の拠点となるまちづくりを実現させるため、これまでの歴史ある農業も継承しつつ、新たに大学や企業とも連携を図ることにより、新たな都市農業のモデルを確立させ、横浜市内外への情報や技術の発信拠点を形成します。

- 「持続可能な都市農業モデル」の確立を目指した多様な主体との連携
●周辺地区と連携した農の魅力の発信拠点の形成
●新規就農者や担い手の育成・支援

物流地区

本編 P.16

東名高速道路等との近接性を活かし、自動運転トラックや後続車無人隊列走行等の最先端技術の導入や本市で検討中の新たなインターチェンジと直結することで効率的な国内物流を展開する基幹物流拠点の形成が期待されます。

物流地区は、物流関係以外の来街者にとっても自動車交通の入口となるため、まとまりのある緑量の確保、視認性の高い緑化の効果的な配置により緑豊かな風景を再構築することが望まれます。

- まちと支え合う次世代物流拠点の形成
●高付加価値な新たな物流の実現
●周辺や環境に配慮したグリーンインフラ・脱炭素への取組
●災害時の円滑・確実な物流

公園・防災地区

本編 P.17

緑の10大拠点「川井・矢指・上瀬谷地区」の一部であるとともに、国際園芸博覧会のレガシーを継承・発信する拠点として、魅力的な水と緑の環境を整備します。また、上瀬谷の記憶とともに次世代に引き継ぐ新たな緑を創出し、花や農をテーマに多様なライフスタイルを实践発信できる自然レクリエーション空間とします。広大・平坦な土地と広域的な交通利便性を活かし、広域応援活動拠点や広域避難場所としての機能を形成します。

※公園部分の計画については、「(仮称)旧上瀬谷通信施設公園基本計画(案)」を参照ください。



旧上瀬谷通信施設公園基本計画

公園基本計画(案) WEBページ

本地区のポテンシャルを活用したグリーンインフラ・脱炭素への取組

○本市では、気候変動への適応策としての雨水の浸透・貯留、ヒートアイランド現象の緩和、良好な景観形成など、自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用する、持続可能で魅力あるグリーンインフラの視点でのまちづくりを推進しています。

- 【例】ポテンシャルを活用したグリーンインフラ、緩やかな起伏を有した現在の地形を活かしたまちづくりなど
○2050年までの脱炭素化「Zero Carbon Yokohama」の実現に向け、市民や事業者等と連携した「環境と経済の好循環の創出」につながる取組を進め、脱炭素を通じて更なる都市の成長につなげます。
○民間事業者の計画において、公共がつくるインフラ像を超えて、新たに緑や農等を介して公共空間と、民有地や生活空間がつながる、国際園芸博覧会で培った、人々の営みに根ざした身近なインフラとしてのデザインやネットワークづくり、脱炭素の先進的な取組を進めることが期待されます。

居心地がよく歩きたくなる環境と様々な交通のネットワーク

- 区域内の地区間をつなぐ道路空間を上瀬谷のイメージ形成にも寄与する景観の軸と考え、快適で魅力的な歩行者空間の形成が期待されます。
○区域外の施設や市民の森等をつなぐ歩行者・自転車ネットワークの形成が期待されます。
○来街者が利用できる様々な交通手段の導入が期待されます。【歩行者・自転車ネットワークの概念図】



公民連携による境界のデザイン

○土地利用の異なる4つの地区が連携してまちづくりを進めていく中では、地区間のつながりを創出する境界のデザインを丁寧に進めることが重要です。

【例】道路空間と一体となった景観及び歩行者空間を形成

道路と沿道の民有地境界部で一体的な歩行者空間を形成



様々な機能・事業者等により相乗効果を発揮するエリアマネジメント

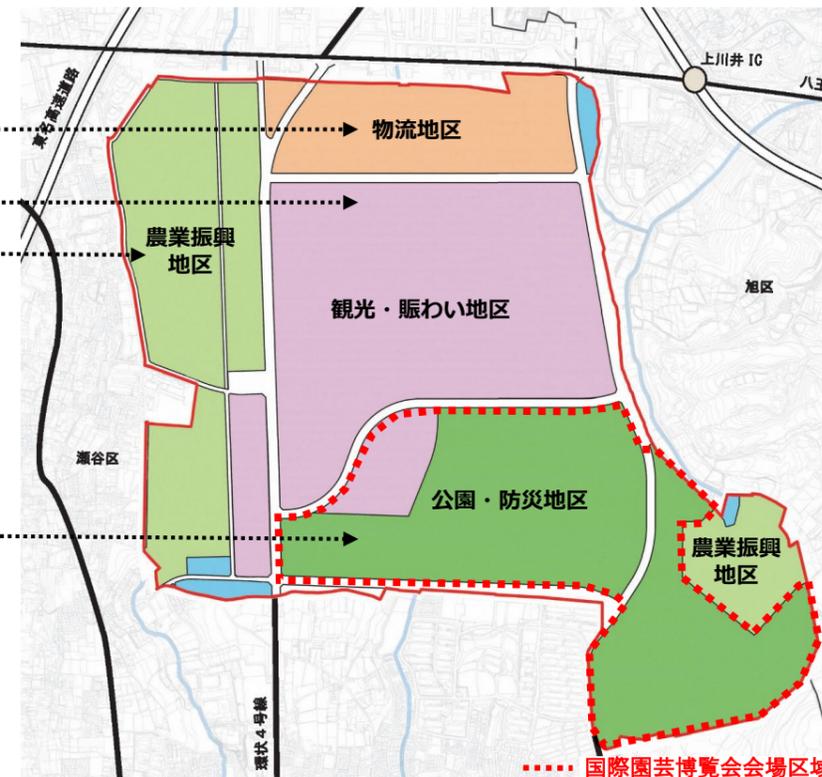
- 地区内の事業者等が、地区全体の価値向上のために相互に連携し相乗効果を発揮するためのエリアマネジメントを行うことが重要です。
○地域で活動している団体などと連携していくことで、本地区と周辺地域の持続的な活性化を図ることが期待されます。

市域・周辺地域での災害対応力の強化

- 幹線道路との近接性等を活かし、大規模災害時に市外からの広域的な物的支援等を円滑に受け入れ市内に展開する、新たな中核的拠点機能が期待され、周辺地域を含めた防災力を高めることが求められます。
○各地区の機能、地域・民間・行政の連携により広域的防災拠点としての力が発揮され、災害に強い安全・安心なまちづくりの推進に重要な役割を果たすことが期待されます。



【中核的な広域的防災拠点機能のイメージ図】



- デザインノートは上位計画のもと作成しています。「横浜市中期計画」、「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」、「横浜市都市計画マスタープラン・区プラン(瀬谷区・旭区)」、「米軍施設返還跡地利用指針」
○地権者との意見交換や、市民意見募集等を踏まえて、まちづくりの方針や土地利用の考え方を「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画(2020年3月策定)」として取りまとめ、これに基づいて新たなまちづくりの検討を進めています。

関連計画：2027年国際園芸博覧会

- 名称 2027年国際園芸博覧会
●テーマ 幸せを創る明日の風景 ~Scenery of the Future for Happiness~
●サブテーマ 自然との調和、緑や農による共存、新産業の創出、連携による解決
●会場 旧上瀬谷通信施設
●開催期間 2027年3月19日(金)~9月26日(日)
●参加者数 1,500万人
●博覧会区域 約100ha
●開催者 公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会



▲博覧会会場イメージ (公社)2027年国際園芸博覧会協会提供

2027年国際園芸博覧会は、国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決への貢献を目的に、横浜の旧上瀬谷通信施設で開催されます。

この国際園芸博覧会は、国際園芸家協会(AIPH)の承認を受けており、2022年6月には博覧会国際事務局(BIE)へ認定博の申請を行いました。11月にBIEからの認定を受け、最高位のA1クラスとして開催される国際的な博覧会です。

【公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会 WEBサイト】 https://expo2027yokohama.or.jp/



国際園芸博覧会協会 WEBサイト